



トリック・オア・トリート

先月末のことでした。6年生の子供が校長室に来て、「ハロウインのこの時期に、おばあちゃんと作った思い出のハロウインの仮装を、下級生にも見せて、サプライズ的なことをしたいんです。」と相談がありました。そこで、「自分のたてわり班の人たちに披露したらどうだろう?」と伝えました。すると、同じたてわり班に所属する上級生と話し合っ、たてわり班の下級生に仮装を見せることにしたそうです。そして、担当の先生にも直談判し、昼休みにたてわり班のみんなに見せることができました。学校を練り歩いた日は雨だったのですが、廊下を走る子供もいなく静かで、たくさんの子供たちが仮装の様子に興味深げに見ていました。また、たくさんの子供たちも仮装の行列に加わり、ハロウイン気分を味わっているようでした。



日本のハロウインは、大人が仮装することが主流になっていますが、本場アメリカのハロウインは、子供主体です。大人がお菓子を用意し、仮装をした子供たちが家をまわって「トリック・オア・トリート! (お菓子をくれなきゃいたずらするぞ!）」と言ってお菓子をもらうのが一般的です。今回は、お菓子はありませんでした。子供自から企画した、ハロウインの甘い思い出はできたようです。

雑草との戦い

学校の敷地は広大で、至る所に雑草が生えています。植えていないのに生えてくるのは、なぜなのでしょう? 抜いた雑草からこぼれ落ちた種が土に落ちていたり、風で遠くまで運ばれる種だったり、鳥が落としたりしたフンの中に種が混じっていたりします。こうした植物が、様々な場所で芽を出すのです。また生命力の強い植物は、土の上に顔を出している部分を切っても、地下で根っこが残っていればまたすぐに成長することができます。



この雑草との戦いは、掃除の時間だけでは手が回らず、朝のボランティア活動でかなり助かっています。ただ、この雑草は、手で引き抜くにも一苦勞です。簡単に抜けるものもあれば、地中に根を張って、雑草同士繋がっているものもあります。秋の雑草は、冬を越し、春に大発生する種が多いので、繁茂する前に抜いてしまうことがポイントとなります。春先によく見かけるヨモギ、ホトケノザ、オオイヌノフグリは、この類となりますので、根を張る前に抜いてしまうことが肝になるのです。

学校の裏庭に当たるおひさま広場では、主事の元松先生が雑草を抜き、子供たちが活動しやすいように学級園周辺の雑草と格闘中です。このひと手間が、雑草を生えにくくすることに繋がります。生命力の強い雑草との戦いはこれからも続きます。